



KAGOME
S T O R Y
2019

会 社 案 内





日本の野菜不足を 解消したい

時間がない、野菜が苦手など、その理由はさまざまですが、日本人の野菜不足は年々深刻化しています。カゴメは、飲料をはじめ、調味料などの加工食品や、生鮮野菜などで培ったノウハウを活かし、その課題解決に全力で取り組んでいます。野菜をもっと身近なおかずとして、いつでも手軽に摂ることのできる暮らしの実現をめざして、さまざまな形で野菜をお届けすることで、健康長寿に貢献していきます。

食を通じて社会課題の解決に取り組み、 持続的に成長できる強い企業をめざして

カゴメの創業は1899年。農業を営んでいた創業者蟹江一太郎がトマトの栽培に挑戦し、その発芽を見た日にはじまります。以来私たちは120年、日本の食を見つめ、新しい食のあり方を提案してまいりました。

当社は、2025年のありたい姿を「食を通じて社会課題の解決に取り組み、持続的に成長できる強い企業」と定めています。農業から生産・加工・販売と一貫したバリューチェーンを持つ世界でもユニークな企業として、健康寿命の延伸、農業振興・地方創生、そして世界の食糧不足の問題に取り組んでまいります。

そして今、私たちは「トマトの会社から、野菜の会社に」というビジョンを掲げています。当社は現在、野菜をさまざまな商品でご提供していますが、日本人の野菜摂取量は目標値に対してまだまだ大きく不足しています。だからこそ私たちは、トマトはもちろん、さまざまな野菜の価値を活かした幅広く革新的な商品を次々とお届けし、人々の健康に貢献することによって、持続的な成長につなげていきたいと考えています。

カゴメの企業理念は「感謝」「自然」「開かれた企業」です。

私たちの原点である自然に根差し、地域社会・お客さま・お得意先さま・栽培農家の皆さま・株主さま・従業員など、世界に広がるあらゆるステークホルダーの皆さまと手を携え、価値ある商品やサービスをお届けできるよう、たゆまぬ努力をしております。皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

カゴメ株式会社 代表取締役社長

寺田 直行



数字でみるカゴメ

「えっ、そうなの?」「知らなかった」「すごい!」。そんなカゴメの特長や実力を言葉だけではなく、さまざまな数字を中心に紹介します。

TOPICS
1

創業120年

1899年、トマトという当時日本ではなじみのなかった西洋野菜の栽培に挑戦し、のちに加工に取り組んだのが、カゴメの歴史の始まりです。
以来、畑を原点に野菜と向き合い、新しい食を提案し、今年120周年を迎えました。



TOPICS
2

17.6%

緑黄色野菜の供給量

日本の
緑黄色野菜消費量の17.6%、
野菜*消費量の4.4%
をカゴメが供給しています。

日本国内の
緑黄色野菜消費量
341万トン

カゴメの緑黄色野菜供給量
60.0万トン

日本国内の野菜消費量
1,410万トン

カゴメの野菜供給量
61.6万トン

*淡色野菜+緑黄色野菜

出典：VEGE-DAS(カゴメ野菜供給量算出システム)、農林水産省「食料需給表」H29年度概算値

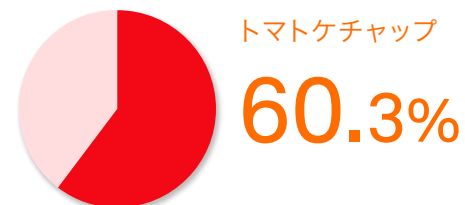
TOPICS
3

NO.1のシェア

国内におけるシェア



※画像は代表的商品です



※画像は代表的商品です



出典：インテージSRI / 期間：2018年1-12月 / 金額ベース
対象エリア：全国 / 対象業態：スーパーマーケット+コンビニエンスストア

出典：インテージSRI / 期間：2018年1-12月 / 金額ベース
対象エリア：全国 / 対象業態：スーパーマーケット+ドラッグストア+コンビニエンスストア
その他：ドライ+チルド、野菜果実ミックスジュースカテゴリー

TOPICS
4

約7,500種

※登録済品種約70種

トマトの遺伝資源種類

イノベーション本部では、約7,500種ものトマト種子をはじめとする豊富な遺伝資源を保管し、データベース化。これらを活用し、遺伝子組み換え技術を用いずに加工用と生鮮用トマトの品種開発をしています。



TOPICS
5

3,594,977人

食育支援活動

子どもたちの「食」への興味を育み、健やかな成長を応援するカゴメの「食育支援活動」。「食育」という言葉が一般的になるずっと前の1964年、全国の幼稚園に保育に役立つ紙芝居や絵本を配り始めたのが、そのはじまり。1972年からは親子に食べ物や健康

の大切さを伝えるミュージカル「カゴメ劇場」がスタートし、のべ359万人を無料でご招待しています。さらに、全国の約1割にあたる小学校や保育園にジュース用トマト「凛々子」の苗と学習教材を無償で提供する活動も続けています。



TOPICS
6

186,095名

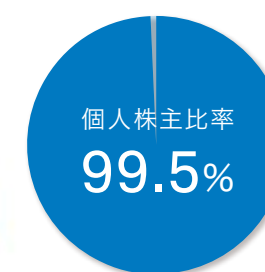
※2018年末時点

個人株主数

「開かれた企業」を企業理念のひとつに掲げるカゴメは、2001年に「ファン株主10万人構想」に向けた取り組みをはじめ、2005年9月に10万人を突破しました。現在も業界では圧倒的多数の株主さまに支えられています。株主さまの声に積極的に耳を傾け、商品開発やイベントの開催に活かしています。



株主優待商品



農業振興・ 地方創生

農業を支え
地域の持続的成長に貢献。

超高齢化や労働人口の減少が急激に進む地域では、農業生産基盤の脆弱化が問題となっています。カゴメは日本の農業の発展が、地域の活性化につながると考え、日本の農業の成長産業化に貢献していきます。

Agricultural development and regional revitalization

生産者や自治体と連携し、地域の農業と健康を応援。

カゴメは、全国の自治体などと協定を結び、地元の農産物を使用した商品の展開やレシピの共同開発、食育やトマトの栽培指導など、地域の農業振興や健康づくりに積極的に取り組んでいます。

【カゴメが地域で締結している協定】

15府県5市1町1団体 25協定 ※2018年末現在



農家の負担を減らし、ジュース用トマト生産量の拡大へ。



農業従事者の高齢化が進み、栽培面積が減る一方で、当社の国内ジュース用トマトの必要量は増加しています。当社ではその解決策の一環として、農業機械メーカーと共同で加工用トマト収穫機「Kagome Tomato Harvester」(KTH)を開発。農家にとって最も負担が重い収穫作業を代行しています。JA全農いばらきとトマトの運搬を委託している美野里運送倉庫(株)(茨城県小美玉市)と連携し、KTHと作業者をセットで派遣する収穫委託を事業化する見通しです。

「野菜生活100季節限定シリーズ」が日本を元気に。

地域の農産物を全国で消費する「地産全消」活動の核となる商品「野菜生活100季節限定シリーズ」は、今では年間10種類以上を順次発売。カゴメはこれからも、新たな野菜や果物の開拓やコラボレーションによって、地域の農業さらには健康長寿をサポートしていきます。

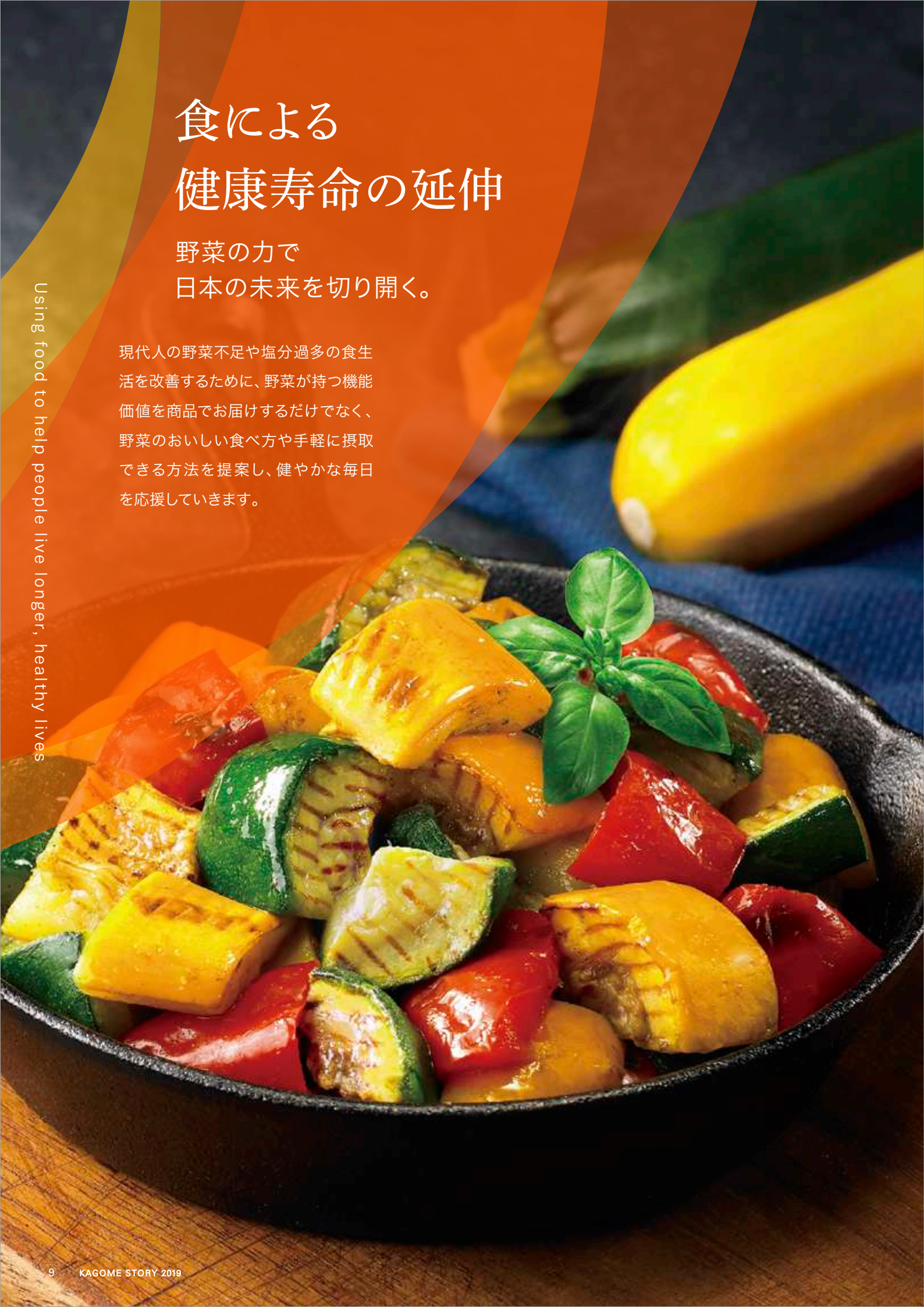


野菜生活100季節限定シリーズ(2018年4月~2019年3月)

食による 健康寿命の延伸

野菜の力で
日本の未来を切り開く。

現代人の野菜不足や塩分過多の食生活を改善するために、野菜が持つ機能価値を商品でお届けするだけでなく、野菜のおいしい食べ方や手軽に摂取できる方法を提案し、健やかな毎日を応援していきます。



「野菜と生活 管理栄養士ラボ」で健康経営にアプローチ

「野菜と生活 管理栄養士ラボ」は、当社の従業員である管理栄養士により編成された「食と健康」に関するコンテンツを開発・提案する専門チームです。カゴメがトマトを中心とする野菜の研究活動で培った知見、小売店・中食・外食業態を展開する企業様向けの営業活動で培ったメニュー開発・提案力を活かし、「健康セミナー」や「メニューレシビ監修」など、健康づくりを支援するコンテンツを開発し、主に法人・自治体向けにご提案しています。立ち上げから1年余りで、セミナー回数は約70回、20の開催企業・団体に述べ5千人にコンテンツを提供、体験頂きました。今後もプログラムを拡充してまいります。



野菜と生活 管理栄養士ラボ



トマトケチャップで、おいしく30%以上減塩。

「日本人の食事摂取基準※」によると、1日の食塩摂取量の目標量は、男性8.0g未満、女性7.0g未満とされ、成人男女の1日の食塩摂取量に対して、約30%の減塩が必要だと言われています。そこでカゴメはトマトのうまみ成分グルタミン酸に着目。醤油や味噌の半量をトマトケチャップに置き換えてもおいしい「30%以上減塩メニュー」を提案し、商品を通して「おいしい減塩」をサポートしています。

※厚生労働省「日本人の食事摂取基準」(2015年)

トマトパッツアで、日本の食文化を守る。

健康志向の高まりとともに魚食ニーズを喚起する取り組みとして、自社商品「基本のトマトソース」を使った新しいメニュー「トマトパッツア」を開発・展開しています。その魅力を全国の家業や業務用市場に発信し、鮮魚や野菜を使った簡単な調理方法と華やかなビジュアルが評価され、手軽で本格的なトマトメニューとして定着しつつあります。



ロングセラー商品が続々、機能性表示食品化。



カゴメは、トマトを中心に野菜の栄養素の研究を長年続け、さまざまな効果効能を検証しています。リコピンに善玉(HDL)コレステロールを増やす働きが報告されており、これによりリコピンを含む「カゴメトマトジュース」(265g、720ml、200ml)と「リコピン コレステファイン」を2016年機能性表示食品として発売。さらに野菜由来のGABAに高めの血圧を下げる働きが報告され、2017年には「カゴメ野菜ジュース」が機能性表示食品として再登場しました。トマト由来のGABAにも同様の報告がされており、2018年からは「カゴメトマトジュース」の機能性表示を追加。さらに生鮮トマトとして初めての機能性表示食品、「GABA Select」を首都圏で発売しました。また、今年には植物性乳酸菌飲料「カゴメラブレαプレーン」を、「腸内環境を改善する」と機能性表示し発売しています。

垂直統合型ビジネス

種子から食卓まで、
ワンストップで価値を創造。

カゴメが保有するトマトの遺伝資源は約7,500種。その種子から、土づくり、栽培、収穫、製造、そして最終商品に至るまで、安全かつ安心という価値を確実にお届けするためのビジネスモデル。それが、カゴメの強みであり、世界的にもユニークな「垂直統合型」ビジネスです。



垂直方向

“トマトのことなら
何でもカゴメに”



需要創造

商品が持つ価値をお客さまに伝え、需要を創造する価値伝達活動。



商品生産

よい原料と技術の最適な組み合わせで、原料の価値を最大化する製造工程と品質管理。



一次加工・調達

自社基準を満たした高品質の原料のみを調達し、おいしさを損わないための一次加工を実施。



栽培

指定品種による契約栽培と農業指導、ハイテク菜園での生鮮トマトの栽培。



品種開発・種苗生産

自社保有の農産物の遺伝資源を用い、交配法で有用品種を創出し、競争力のある種苗を生産・供給。



研究開発

自然の恵みの農産物の価値を最大化し、健康長寿に貢献するための一貫した研究開発。



水平方向

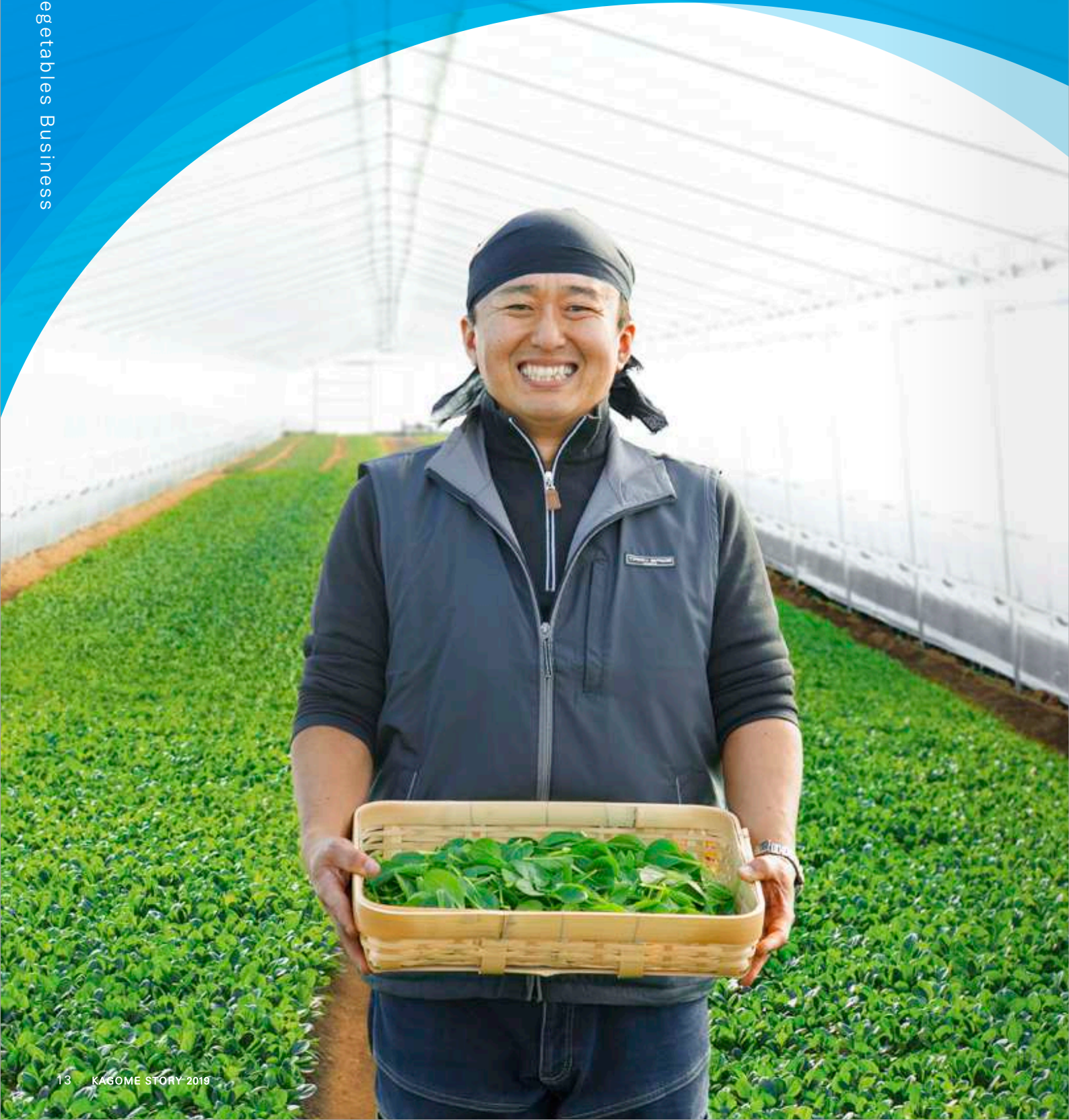
世界各地の
主な拠点



生鮮ビジネスの 拡大

最先端の技術を集結し、
生鮮事業で農業の
成長産業化。

生鮮トマト事業では、高リコピントマトを中心に生鮮売場を活性化し、新たなトマトの品種開発を進めています。さらに、パックサラダとベビーリーフの販売エリアや商品ラインナップを拡充させ、「トマトの会社から、野菜の会社に」事業領域を広げます。



トマトの安定供給に貢献する大規模ハイテク菜園
(写真は「いわき小名浜菜園」)



お客さまに価値をつたえる「こくみレディ」



大人葉に比べ栄養価が高いベビーリーフ

大規模ハイテク菜園を 全国で展開

1998年より本格的にスタートした生鮮トマト事業。旬の夏と秋の時期は露地栽培、その他の時期は大型菜園でトマトを栽培しています。大型菜園では、温室内の温度や湿度、灌水などをコンピュータで自動制御。外界との接触が少ないため病虫害のリスクを抑えることもできます。また、立体的な仕立て方により、単位面積当たりの収穫量を最大化できるなど、均一な室内環境と均一な管理作業によって年間を通して安定した出荷量と高単収を実現しています。クリーンエネルギーの活用やCO₂対策、節水、生態系への配慮にもつながる大型ハイテク菜園は全国14カ所。「ラウンドレッド」や「高リコピントマト」をはじめ、17,600tの年間出荷量を誇っています。

パックサラダ市場の拡大

高齢化やライフスタイルの変化により、野菜を買って作る手間が省ける手軽なカット野菜やサラダ類など野菜加工品市場は年々拡大傾向にあります。カゴメは、パックサラダをスーパーやコンビニエンスストアを中心に販売しています。今後は低温物流網を構築し、販売エリアを広げていきます。併せて、発芽大豆やケール、スプラウトなどの新しい高機能野菜を使った商品も拡充し、市場をさらに活性化。彩り豊かな食卓と健康をサポートします。また、イタリア野菜や機能性野菜コーナーなど、流通にとって魅力ある生鮮売場づくりにも積極的に取り組んでいます。

ベビーリーフの販売を強化

カゴメがトマト以外で初めて発売した野菜がベビーリーフです。ベビーリーフは食物繊維やカルシウム、鉄、ビタミンAなどが栄養表示基準を上回る高機能野菜です。また、その幼葉には大人葉よりも多くのポリフェノールやβカロテンが含まれていることも明らかになっています。昨年から山梨県北杜市で「高根ベビーリーフ菜園」を稼働。供給体制と販売を強化するとともに、新たなメニューを提案しています。さらに、昨年秋には洗わずにそのまま使えるベビーリーフ「Green Vege Bowl」シリーズを発売。今後も、毎日の食事に手軽に野菜をとり入れることのできる魅力的な商品をお届けします。



ラウンドレッド

高リコピントマト



トマトサラダ



ベビーリーフ

畑は第一の工場

よい原料はよい畑から。
それが商品づくりの哲学。

「畑は第一の工場」というものづくりの思想のもと、創業時から続けてきた契約農家との栽培に取り組み、トマトジュースの原料の国内産地拡大を進めながら、契約栽培で培ってきたノウハウや実績を海外からの原料調達にも活かしています。



グローバル トマト サプライヤーへ

挑戦しつづけ、成長しつづけ、
「トマトならカゴメ」を
世界共通語に。

2050年には90億人に達するとも言われる人口の増加に伴い、世界の食糧やトマトの需要も大幅な伸びが予測されています。カゴメはトマトをはじめとした食を通じて、世界が抱える様々な課題の解決に貢献し、世界No.1のグローバルトマトサプライヤーをめざします。

Becoming a
Global Tomato Supplier

フィールドマンと呼ばれる農業のプロがいます。

カゴメは創業以来、よい原料はよい畑から生まれるという思いを変えることなく、安心・安全な原料を調達するためにトマトなどの「契約栽培」に取り組んでいます。日本の農業との共存共栄を図る「契約栽培」は、まず作付け前に農家の方々と全量を買入れる契約を結びます。その後、フィールドマンと呼ばれる担当者が契約農家の畑を巡回し、カゴメ独自のきめ細かな栽培指導をはじめ、トマトの生育状態にあわせて的確なアドバイスを行っています。「契約栽培」を行うことで、農家の方にとっては廃棄の無駄や価格変動という不安がなくなり、高品質の原料を作ることに専念できます。同時に、高齢化する日本の農家において経験の浅い若手農家の育成にもつながります。こうしてカゴメは、近い将来のトマトジュース原料の国内産地拡大をめざしています。



セネガルに加工用トマトの 営農会社を設立

昨年12月、アフリカのセネガル共和国に加工用トマトの栽培・仕入れ・販売を担う営農会社「Kagome Senegal Sarl (カゴメセネガル社)」を設立しました。西アフリカにはトマトの食文化が根付いており、セネガルではトマトの一人あたりの年間消費量は20kgを超え、日本の2倍以上です。しかし、資金不足や栽培技術が未熟なこと、病虫害などにより、品質・量ともに十分にトマトを確保できていない状況です。同社では、当社グループが保有する種子や栽培技術などの農業技術資源を用いて、セネガルに新たな加工用トマト産地を形成し、西アフリカ地域の加工用トマト市場の振興に貢献していきます。



現地での栽培指導の様子

最先端の加工用トマト 栽培技術を共同開発

2015年3月より、ビッグデータを活用した海外における最先端の加工用トマト栽培技術の開発に着手しています。具体的には、試験圃場に設置した気象・土壌などの各種センサや人工衛星・ドローンなどから得られるデータと、灌漑・施肥などの営農環境から得られるデータを活用し、トマトの生育状況や気象条件に応じた水・肥料・農薬などの使用量の最適化と収穫量の最大化を達成することで、農業の高付加価値化と環境にやさしい農業の実践をめざしています。



収量は、2015年夏期シーズンで、ポルトガルの平均の約1.5倍にあたる146t/haを実現。

グローバルフードサービスの 取り組み

私たちは、グローバルに活躍する大手フードサービス企業各社と連携し、トマト加工品の提供だけでなく、新商品の開発にも取り組み始めています。また、いっそう高まる「低糖・低塩・低脂肪」ニーズに対して、カゴメは「トマトと野菜の栄養成分、機能性研究」等の成果を活用し、「食による健康」として実現をめざします。さらに、中国をはじめとしたアジア領域や、南米、中東など新しい領域での顧客の開拓や事業機会の獲得にも積極的に取り組みます。



ピザソースなどのトマト加工品 (イメージ写真)

世界80カ国以上で種子育苗事業を展開。

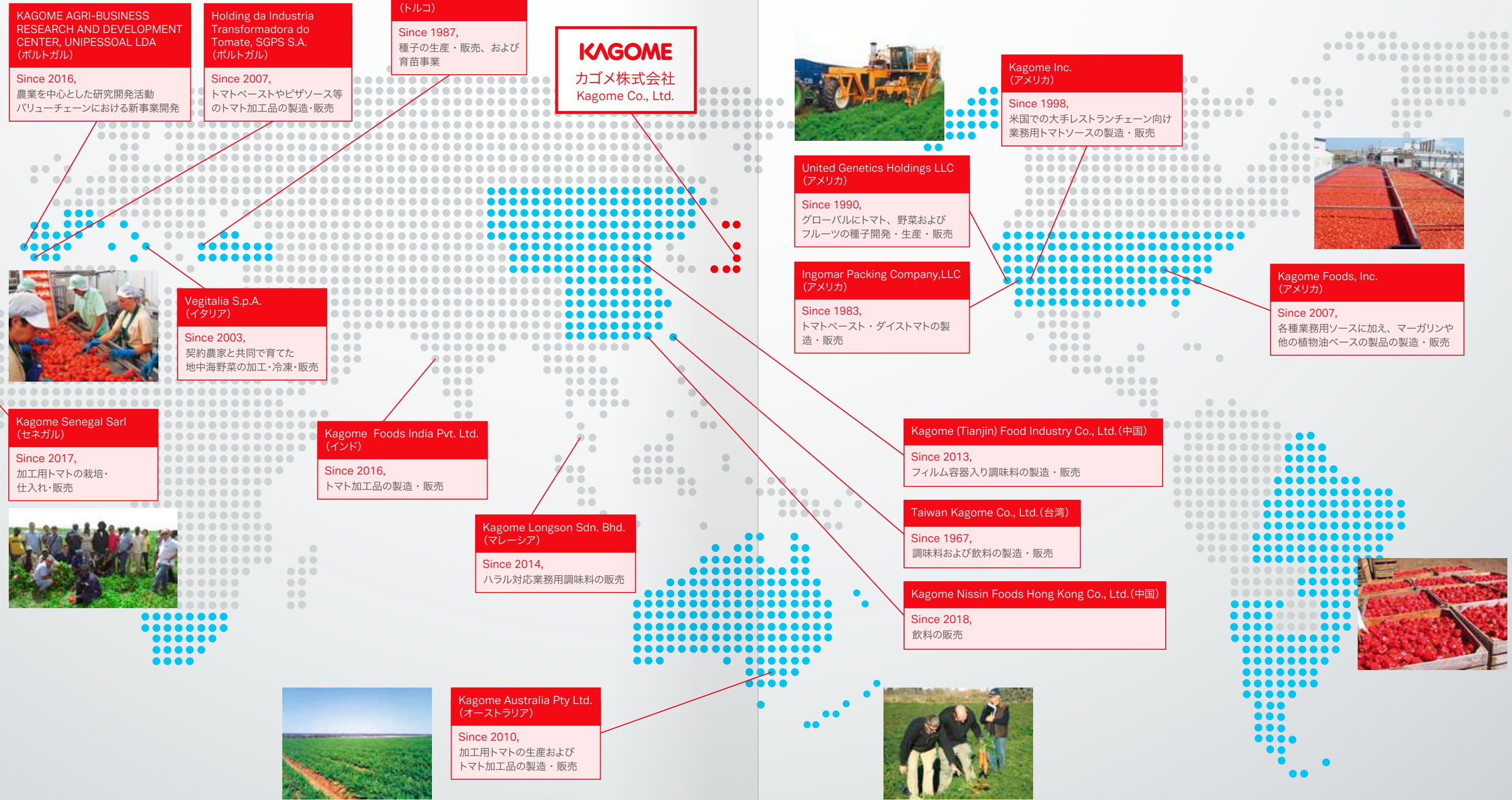
カゴメは2013年11月、トマトと野菜の非遺伝子組み換え種子を自社開発し、アメリカを中心に80カ国以上もの市場で販売事業を展開している米国の種苗会社ユナイテッド・ジェネティクス社を子会社化しました。これにより、種子を起点としたカゴメのトマト事業は世界中に拡大。種子から原料、加工、販売までワンストップで価値を創造するカゴメ独自の垂直統合型ビジネスと世界各地に広がる水平方向の拠点を武器にグローバル化がいっそう加速します。



世界中の人たちに、 おいしさと健康をお届けするために。

日本で培ってきたノウハウをもとに、世界各地を調査し、最適な栽培地を吟味して、世界中の国々で事業を展開しています。

● 海外の原料生産国



トマトの特徴にあわせた商品開発。

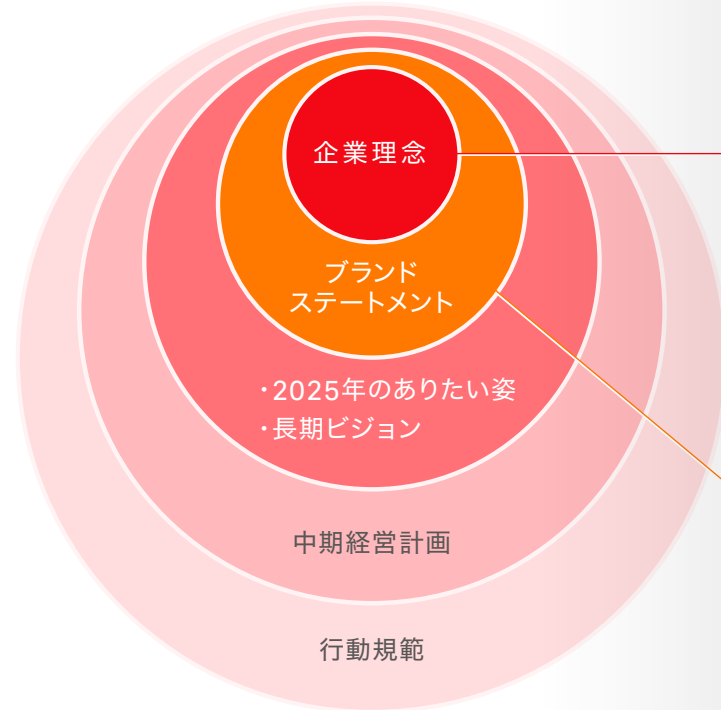
トマトの品質特性は産地によって大きく異なります。例えば、日本や中国のトマトは酸味が強く、逆にチリやポルトガルでは甘味が強い。こうした産地別での特徴を商品開発に活用できるのも世界中にネットワークがあるカゴメならではの大きな武器です。

加工用トマトの産地と特徴の一例					
産地	甘味	酸味	旨み	味のタイプ	主な加工品
日本	中	強	中	酸味型	トマトジュース
チリ	強	中	弱	甘味型	ペースト
ポルトガル	強	中	中	甘味型	ペースト
イタリア	中	中	強	旨み型	ホールトマト・ダイストマト
トルコ	中	中	中	バランス型	ペースト・ホールトマト・ダイストマト
アメリカ	中	中	中	バランス型	ペースト・トマトジュース・トマトケチャップ



カゴメの理念体系

カゴメは、創業以来120年、トマトなど自然の恵みを活かした商品を通して、人々の健康に貢献してきました。そして、企業理念を守り続けながら、カゴメの価値を時代とともに磨いてきました。そんなカゴメがめざす、2025年にあるべき理想の姿。それは、日本はもちろん世界が抱えるさまざまな社会課題の解決に、これまで培ってきたトマトや健康への知見で積極的に取り組み、持続的に成長できる「強い企業」「野菜の会社」としてのカゴメです。



企業理念 時代を経ても変わらずに継承される「経営のこころ」

感謝

私たちは、自然の恵みと多くの人々との出会いに感謝し、自然生態系と人間性を尊重します。

自然

私たちは、自然の恵みを活かして、時代に先がけた深みのある価値を創造し、お客さまの健康に貢献します。

開かれた企業

私たちは、おたがいの個性・能力を認め合い、公正・透明な企業活動につとめ開かれた企業を目指します。



ブランドステートメント ブランドのありたい姿

自然を

自然の恵みがもつ抗酸化力や免疫力を活用して、食と健康を深く追求すること。

おいしく

自然に反する添加物や技術にたよらず、体にやさしいおいしさを実現すること。

楽しく

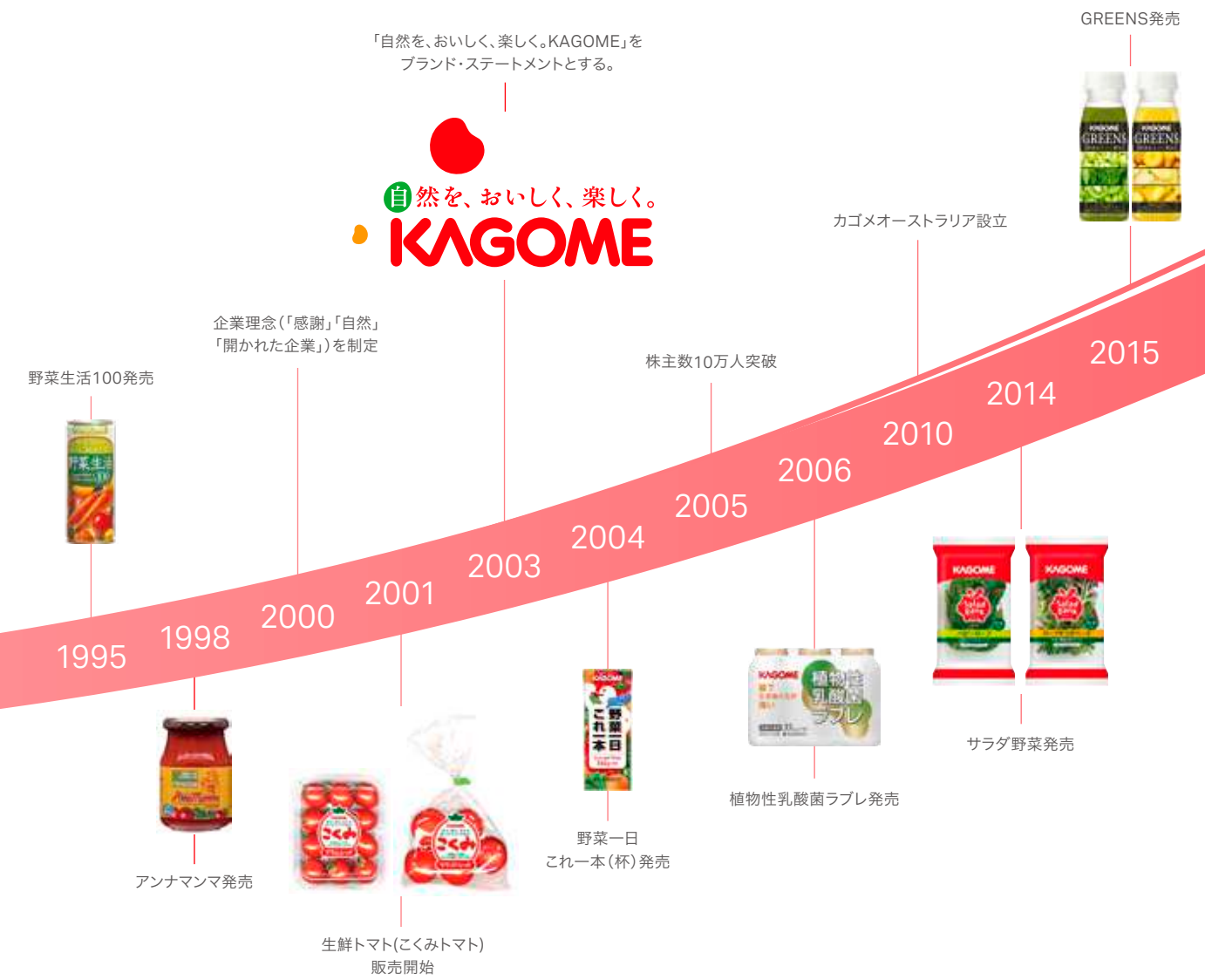
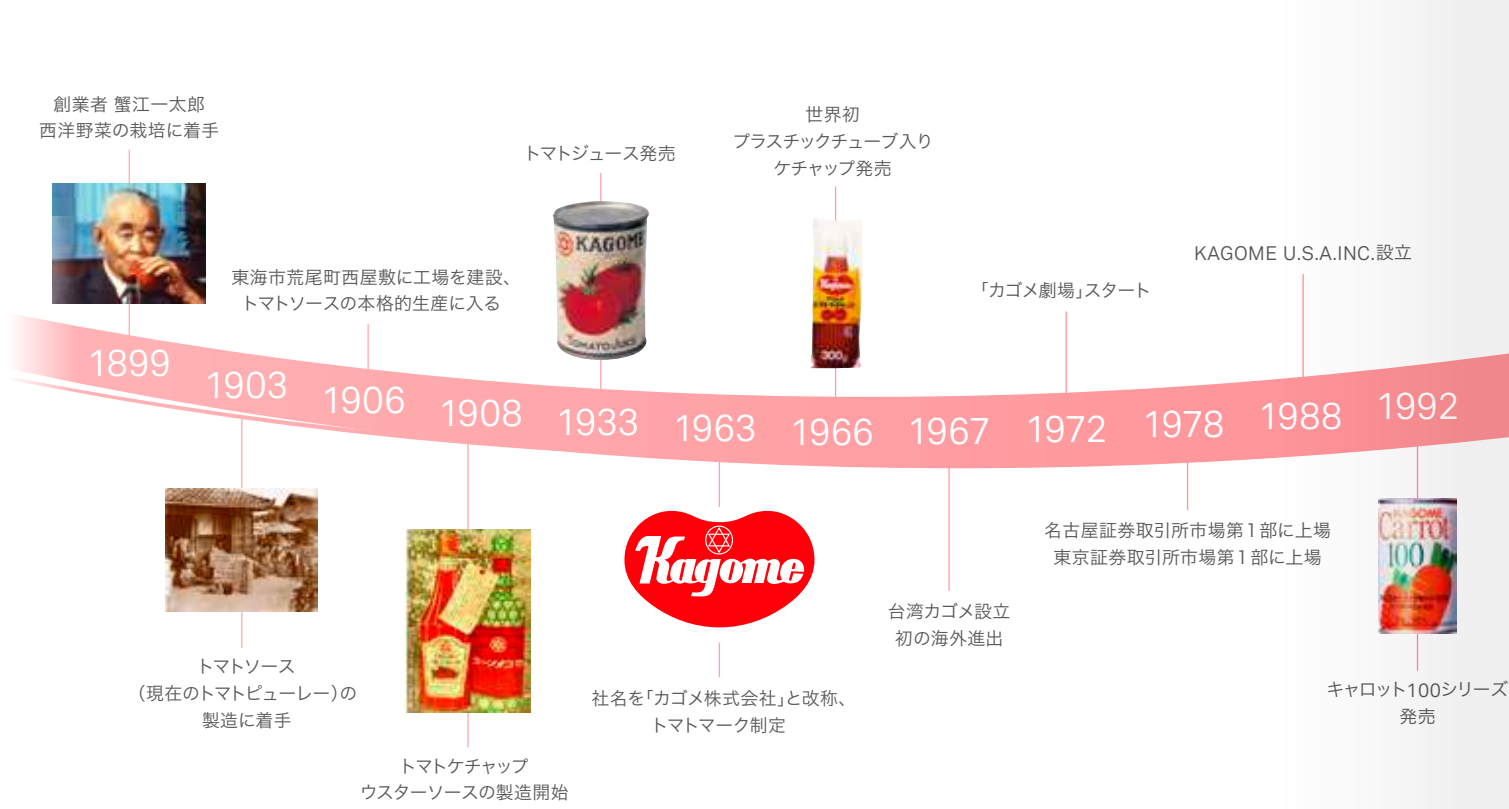
地球環境と体内環境に十分配慮して、食の楽しさの新しい需要を創造すること。



これまでのあゆみ

1899年の創業以来、「自然の恵みである農産物の価値を活かして、人々の健康に貢献したい思い」を商品に込め、生活者の皆さまにお届けしています。その歩みは、時代の

ニーズに応えるためにこれまでなかった商品を開発しつづける「技術革新」の歴史でもあります。



中期経営計画

2025年のありたい姿

「食を通じて社会課題の解決に取り組み、持続的に成長できる強い企業になる」

社会課題 1 健康寿命の延伸 社会課題 2 農業振興・地方創生 社会課題 3 世界の食糧不足

日本国内においては、少子高齢化を背景とした医療費や介護費が増加し、労働人口が減少しています。一方、世界に目を向けると、人口増加や異常気象等による食糧不足が深刻化しています。当社は、こうした社会課題の解決に、これまで培ってきた野菜・健康への知見を活かして貢献していきます。

社会課題への取り組みと貢献

健康寿命の延伸

- ・ベビーリーフやバックサラダなどの生鮮領域強化による提供野菜の種類拡大
- ・「ベジタブル・ソリューション」による「野菜のおかず」の消費拡大
- ・健康増進サービス事業を通じた、顧客の行動変容による野菜摂取量の拡大
- ・包括協定を締結した自治体と、エリア流通業との協働による、地域の健康増進
- ・大学等の外部機関との共同研究による、野菜摂取と健康増進の関係性の解明

農業振興・地方創生

- ・国内における野菜加工ビジネスの拡大
- ・耕作放棄地での加工用トマトや野菜の生産、生産者の高齢化・人手不足対策
- ・通販「農園応援」での活力ある生産者の発掘と販売支援
- ・加工品の“地産全消”モデルの拡大
- ・包括協定を締結した自治体の農・水・畜産物消費拡大

世界の食糧不足

- ・セネガル、インド、他新興国での加工用トマト産地開発と生産性向上支援
- ・最先端技術の活用による持続可能な高効率農業への貢献

東日本大震災からの復興

- ・復興住宅や保育園等での料理教室、カゴメミニ劇場開催、キッチンカー派遣
- ・農業高校へのトマト栽培指導
- ・みちのく未来基金を通じた震災遺児の進学支援

長期ビジョン

2025年までに

「トマトの会社」から「野菜の会社」に

生鮮野菜からジュース・調味料、冷凍素材、サプリメントに至るまで幅広く、さまざまな素材・カテゴリー・温度帯・容器・容量で「野菜」を取り扱っている会社として、カゴメはユニークな存在です。安心安全、おいしさ、健康などの提供価値を磨き、「野菜の会社」をめざします。

- 一日の野菜摂取量を277g(2016年)から350gにする(日本国内)
- 緑黄色野菜の供給量を17.2%(2016年)から20%にする(日本国内)

2040年ごろまでに

女性比率を50%に一社員から役員まで

多様化する消費者ニーズへの対応や、ダイバーシティの考え方に基づき多様な視点を取り入れることで、お客さまをはじめとしたステークホルダーの視点に立った事業戦略や活動を進展させます。

中期経営計画(2019年度～2021年度)

基本戦略

収益力強化の継続と新事業・新領域への挑戦による成長

「2025年のありたい姿」や長期ビジョンの達成に向けて、16年からの3か年に続く19-21年を“第二次”中期と位置づけ、新事業・新領域に挑戦し、当社の社会的価値・経済的価値を高めていけるよう取り組みます。また、新事業には大きな投資が伴うため、その原資を創出するべく引き続き収益構造改革を進めるなど、イノベーション創出の基盤をあらゆる側面から整え、体質化してまいります。

中期重点課題

重点課題 1 「バリューアップ」と「ムダ・ムリ・ムラの削減」の継続

重点課題 2 新事業・新領域への挑戦

重点課題 3 「働き方の改革」から「生き方改革」へ ～厳しくも、働きやすく、働きがいのある会社になる～

重点課題 4 「強い企業」になるためのしくみづくり

事業戦略

食の外部化・ボーダレス化を踏まえ、従来の家庭用・業務用・農の事業の垣根を無くし連携を深め、「野菜の会社」として、「健康寿命の延伸」という社会課題の解決に向け“野菜をおかずで摂る”提案に本格的に取り組めます。

事業セグメント別目標(2021年度)

※2019年12月期決算より国際財務報告基準(IFRS)を適用

1 国内加工食品事業

売上収益 1,480億円
事業利益 124億円

2 農事業

売上収益 140億円
事業利益 8億円

3 国際事業

売上収益 500億円
事業利益 30億円

各事業の連携を一層進め、B to Cで培ったブランド価値をB to B to Cの企業価値に拡げることを目指します。そのために、B to Bの「野菜のソリューション力」とB to Cの「野菜の需要創造力(イノベーション)」を向上し、中食・外食への「野菜のおかず化」提案本格化と、野菜の新産地・加工拠点形成による商品領域の拡大に取り組めます。

事業紹介

多彩なラインナップで 野菜の価値をお届けします

時間がない、野菜が苦手など、その理由はさまざまですが、日本人の野菜不足は年々深刻化しています。

カゴメは、手軽においしく野菜を摂ることのできる商品を広くお届けしたいとの思いから、飲料や食品、業務用だけでなく、通販や農事業まで事業領域を広げ、1,000種類以上の商品ラインナップで、その問題解決に全力で取り組んでいます。

さまざまな形で野菜をお届けし続けることで、日本の野菜不足を解消し、健康長寿に貢献してまいります。

農事業 生鮮トマト / 野菜 / 農産加工品 / 家庭用園芸商品



飲料事業 野菜果実ミックス / トマト100% / 野菜100% / キャロット100% / 乳酸菌



業務用事業 業務用常温商品 / 業務用冷凍商品



食品事業 トマトケチャップなど / トマト調味料 / ソース / パスタソース おかず調味料 / レンジ調理食品 / 鍋用つゆ



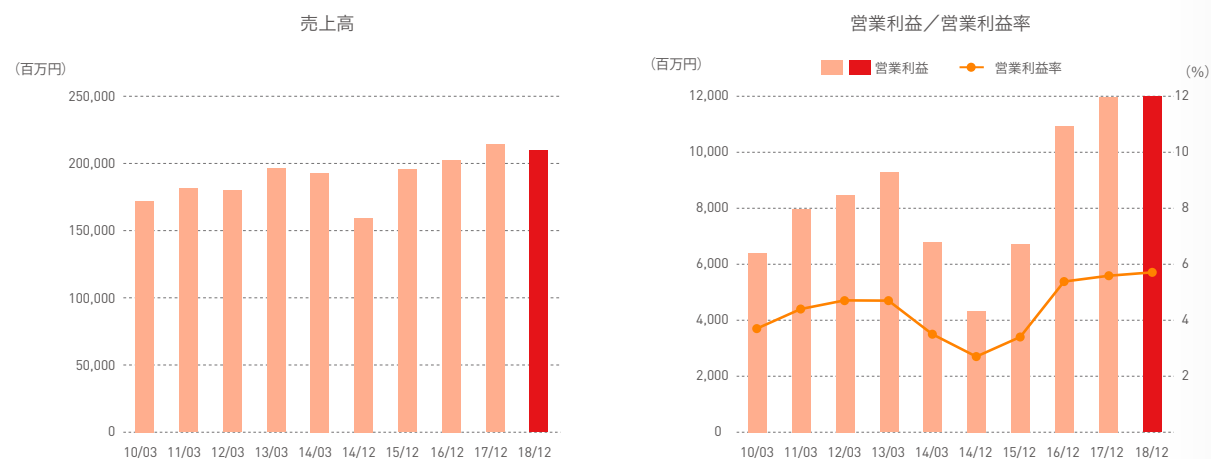
通販事業 季節商品 / 飲料商品 / サプリメント



会社概要

連結決算財務パフォーマンス

※2014年度は事業年度変更に伴い、2014年4月1日～12月31日までの9カ月間となっております。



会社概要 (2018年末現在)

創 業	1899年(明治32年)	主な連結子会社
設 立	1949年(昭和24年)	響灘菜園株式会社
本 社	愛知県名古屋市中区錦3丁目14番15号 TEL(052)951-3571(代表) FAX(052)968-2510	いわき小名浜菜園株式会社
東京本社	東京都中央区日本橋浜町3丁目21番1号 日本橋浜町Fタワー TEL(03)5623-8501(代表) FAX(03)5623-2331	カゴメアクシス株式会社
資 本 金	19,985百万円	Kagome Inc.
従業員数	2,504名(連結)	United Genetics Holdings LLC
事業所	本社、東京本社、1支社、8支店、6工場、イノベーション本部	Vegitalia S.p.A.
事業内容	調味食品、保存食品、飲料、その他の食品の製造・販売、 種苗、青果物の仕入れ・生産・販売	Holding da Industria Transformadora do Tomate, SGPS S.A.(HIT)
		台湾可果美股份有限公司
		Kagome Australia Pty Ltd.

CSR情報のご案内

CSR関連情報をご紹介します。
<http://www.kagome.co.jp/company/csr/>

公益財団法人 みちのく未来基金



2011年カゴメは、ロート製菓(株)・カルビー(株)とともに宮城県仙台市に「みちのく未来基金」を設立し、震災遺児の進学を支援する活動を開始しました。現在はエバラ食品工業(株)も加わり4社にて運営する公益財団法人です。東日本大震災によって両親またはいずれかの親を亡くした子どもたちは、全国で約1,800人とされています。彼らの高校卒業後の進学の夢を支えるために全国から寄附を

いただき、入学から卒業までに必要な入学金と授業料の全額(年間上限300万円)を返済不要の奨学金として給付しています。当基金では、震災当時お腹の中にいた子どもが進学先を卒業するまで、今後約20年間にわたり長く支援を続けてまいります。



ホームページで詳しい内容をご紹介します。 [みちのく未来基金](#) 🔍 検索

カゴメ野菜生活ファーム富士見



「農業・ものづくり・観光」が一体化した体験型「野菜のテーマパーク」をコンセプトに、「カゴメ野菜生活ファーム富士見」を長野県諏訪郡富士見町に開業しました。八ヶ岳の雄大な自然を背景に、野菜と豊かにふれあひながら、農業や食、地域の魅力を体験できる施設です。

ホームページで詳しい内容をご紹介します。 [野菜生活ファーム](#) 🔍 検索



カゴメ株式会社

本 社 / 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目14番15号 TEL. (052) 951-3571 (代表)
東京本社 / 〒103-8461 東京都中央区日本橋浜町3丁目21番1号 日本橋浜町Fタワー TEL. (03) 5623-8501 (代表)

